第13期第3回武蔵野市情報公開委員会 会議要録

- 日時 令和4年10月6日(木) 午後6時15分～8時15分
- 場所 武蔵野プレイス フォーラム
- 出席者 委員 7名
事務局 4名

1. 会議次第

1 議事

- (1) 第13期第2回委員会会議要録について
- (2) 令和4年度の開示等状況について
- (3) CIMコラムのテーマについて
- (4) 個人情報保護法の改正に伴う条例改正と委員会、審議会について
- (5) その他

2. 議事における会議要録

- (1) 第13期第2回委員会会議要録について

(委員長) 修正点等がありますか。

(事務局) 4ページの下から2番目のところに委員長の発言があり、「内容であれば」とありますが、誤変換ありで、「ないようであれば」と修正をお願いします。

(委員長) 他にはよろしいですか。もしその他に修正点があるようであれば、令和4年10月14日までに事務局まで連絡してください。その後、修正点があれば反映し、委員名を削除したうえで公表することとします。

- (2) 令和4年度の開示等状況について

(委員長) 行政文書の開示状況として、まず今年の4月1日から8月31日までの行政文書の開示状況についてお願いします。

(事務局) [令和4年4月1日から令和4年8月31日までの開示等請求について、行政文書の開示が68人から125件の請求があり、開示が25件、一部開示が75件、非開示が2件、文書不存在が22件、処理中が1件であり、また、このうち期間を延長したものが10件であったこと、審査請求は1人から1件あったことを報告した。]

(委員長) 質問等ありましたらお願いします。

(委員) 53番の案件の請求理由が「学習・勉強」になっていますが、間違いないでしょうか。

(事務局) 間違いありません。

(委員長) 14番はどのような内容の開示請求でしょうか。

(事務局) これは、住宅建築を請け負っている建築事業者が、建築にあたり、その道路に協定等があるかどうか確認する必要があり、そこが4メートルに満たない狭あい道路で、市及び個人との協定があったという内容です。4メートル以下の通りに家を建てたいといったときに、建てられる道路と建てられない道路がありますが、建てられる道路だとし

ても、セットバック、後退しないといけないので、その後退のことについて協議を行っている文書です。なぜこれが必要か、という事情までははっきりはわかりません。

(委員長) ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(委員) 語句の質問ですが、1番の2行目のところに「経営会議議事録」とありますが、この「経営会議」という会議はどなたが出ていますか。

(事務局) これは、市役所に庁議というものがあり、その庁議の中の一番上の、市長、副市長、主要な部長で構成されている会議が経営会議という名称であり、その議事録が請求されたという案件です。

(委員) 一部開示というのは、市長や副市長が発言したということがわからないようにして開示したということでしょうか。

(事務局) 特別の事情があり、市長、副市長を指す理事者以外の課長級の出席者名を非開示としています。

(委員) 職層のレベルで、これ以上の職層の方は開示できるが、それより以下だと開示できないというような基準がありますか。

(事務局) この案件はそれとはまた違う特別の事情があつて、結果として課長級の者の氏名が非開示となりました。原則的には全て開示することとなります。

(委員) わかりました。

(委員) 市の職員の氏名は開示するということですね。

(事務局) 原則的にはそうです。

(委員) その他の人は非開示となるということですか。

(事務局) 一般的な市民の方が、例えばその経営会議の案件の中に個人名として出てくることもありますので、それは非開示になります。今回のこの件については、そうした方はおりませんでした。

(委員) ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは続いて自己情報に関するご報告をお願いします。

(事務局) [令和4年4月1日から令和4年8月31日までの自己情報の開示等請求について、開示等請求が17人から19件あり、開示が10件、一部開示が8件、非開示は0件、文書不存在が1件、また、このうち期間を延長したものが2件であったこと、審査請求はなかったことを報告した。

また、令和4年4月1日から令和4年8月31日までの特定自己情報の開示等請求について、開示等請求及び審査請求はなかったことを報告した。]

(委員) 5番の法律相談の記録は何を開示したのでしょうか。

(事務局) 法律相談の後に書いている記録です。相談された弁護士の方に対して、相談時に作成された記録を見たいという話があり、結果的に自己情報開示請求をしていただいて開示しました。

(委員) よろしいでしょうか。ちなみに、9番は建築確認についてですが、これも毎年開示請求されますよね。

(事務局) これは、開示請求人のお父様が建てられた建物の建築確認申請の際の図面を見たいという理由で請求されたものです。本来であれば控えとして持っているものを紛失してしまい、改めてその写しが必要となったようです。本来的には、個人情報などを非開示にする形で、一般の行政文書として開示請求するという方法もありましたが、個人に関する部分も含めて開示する形で写しが欲しいという話であったので、例外的に自己情報開示請求ということでお受けしたという事例です。

(委員長) わかりました。他にはよろしいですか。では、審査請求の報告をお願いします。

(事務局) [前年度から継続して取り扱っている案件及び令和4年4月1日から8月31日までに情報公開・個人情報保護審査会で取り扱った1件の審査請求について説明を行った。]

(3) CIMコラムのテーマについて

(委員長) まずは新しいテーマについて挙げていただければと思います。

(委員) 9月15日号の中に地域社協(福祉の会)が出てきます。「地域社協(福祉の会)と呼ばれる住民同士の助け合い活動を行う住民有志の活動団体です」とあるんですが、これを読むと、何か、地域社協が災害時の安否確認をメインにやっているというように私には読めてしまったので、地域社協(福祉の会)についてのCIMがあってもよいと思いました。

(委員長) 「I 健康・福祉」ですね。

(委員) もう一つは、NHKのニュースを見ていると、様々な市区町村でイベントをやったという報道があります。それを見て、同じようなイベントを武蔵野市はやっているかどうか調べると、武蔵野市はおおよそ同じようなことをやっています。

そのような中で、外国語を話すお子さんたちの就職の支援について調べたところ、武蔵野市もMIAでやっていますが、そうした支援に関する手法はデジタル化されていて、それから、10数か国語でもCIMを読めるようになっていて以前に説明を受けたことがあるので、CIMの内容自体も、外国語を話す方々にも有意義になるような内容のものを載せてもいいかなと思いました。

おそらくMIA、国際交流協会の話が中心になると思いますが、こういう事業化もありますし、そういう外国語を話す方々にとって有益な情報があればよいのではないのでしょうか。

特にMIAでは、週に分かれて、今日はロシア語を話す方の相談日、という取組みもあります。そのように来所して対面でも、電話でも、メールでも、とにかくそういう相談の受け皿があるというのを市報の中に載せられればよいと思いました。このテーマは「Ⅲ 文化・市民生活」ですか。

(委員長) 外国の方というか、外国語しか話せない人に対する支援ですね。

(委員) そうですね。

(委員長) そういう方々の支援の活動ということですね。日本語が読めないあるいは話せない方に伝わるようにしたいと、そういうことですね。

(委員) はい。市報にもし載った場合、言語が変換されるということは、CIMの内容も言語変換されると考えてよいのでしょうか。

(事務局) 基本的にはそうだと思います。全てを変換しているかは定かではありません。

(委員長) 調べていただいてよろしいですか。

(事務局) わかりました。そうすると、テーマとしてはどのようなタイトルになりますか。

(委員長) 「外国語しか話せない方々への支援」だと思います。

(委員) 多言語ガイドンスという語句も使われたりしています。

(委員長) 表現はちょっと工夫していただければと思います。基本は、外国語とありますが、外国語を話す方への支援活動ということだと思います。

これは「Ⅲ 文化・市民生活」でよろしいですか。

(事務局) そうです。

(委員) エンディングノートも英語だけじゃなくて中国語に翻訳されているようです。

(委員長) わかりました。他にはよろしいでしょうか。

(委員) ハビットと子ども子育て支援課で障害者の子どもの成長の支援をするという「子どものステップノート」ができて、新たな取組みが始まったということを知って、すごくよいことだと思っています。地域の人は、災害時要支援事業に関しても、障害のあるお子さんたちが大きくなってきて、そうした方々のお母さん、お父さんたちも年を取り、就労支援、就労している人たちの支援ということが今すごく薄く、困っていらっしゃるようです。災害時のことでちょっとお尋ねすると、そういうことがあるというふうにお聞きしているので、就学支援から就労者の支援など、武蔵野市でやっていることがあれば取り上げていただきたいと思ったのが1つです。

もう1つは、児童養護施設に日赤奉仕団として布団はぎのボランティアに行っていましたがおねしょをする子が多かったです。今度、施設長さんが代わり、布団はぎがなくなって、雑巾作りとかそういう内容になったのですが、自立支援ホームのような施設に入り、18歳になって独り立ちをするというときに、電化製品を寄附してくださる方々を車で運ぶというボランティアをやっているところもあります。そうやって、18歳からの支援を行っている団体などについては、なかなか目がいかないと感じています。

日赤奉仕団でも、施設の子どものボランティアとして、いろいろな季節の事業にも参加していますが、18歳で施設を出た子の支援はなかなかできないんですが、そういうボランティアとか支援をやっている方が武蔵野市にいたら、ちょっと目を向けると、私たちが知る機会になってよいと思っています。

(委員長) 1つ目のほうは、障害者の子どもの支援ですか。

(委員) 障害者のステップノートですね、ハビットと子ども子育て支援課でやっている事業です。本人が障害者で、ステップノートというのを作っていて、武蔵野市が、成長して大きくなって支援するためのステップノートというものができたという話を聞きました。

(委員長) 「Ⅱ 子ども・教育」でよいでしょうか。

(事務局) 分野的には就学につなぐためのノートなので、「Ⅱ 子ども・教育」でよいと思います。

(委員長) 2番目のほうは、大人になった後の支援の話ですね。

(委員) そうですね。

(委員長) そうすると、「Ⅲ 文化・市民生活」か、「Ⅰ 健康・福祉」ですか。

(事務局) 「Ⅰ 健康・福祉」ですね。児童養護施設は基本的に市のどこかの部署が所管するものではありませんが、独り立ちするときの家具の提供を行っている方はおそらく市内にいるとは思いますが。

ただ、本来は18歳になったら退所しなければいけません、猶予期間に関する制度改正もあったと思いますので、「Ⅰ 健康・福祉」か「Ⅱ 子ども・教育」か微妙ではありますが、どちらかに係る内容かと思えます。

(委員長) 内容を確認していただいて決めますが、一応「Ⅰ 健康・福祉」とし

たいと思います。ほかに何かないでしょうか。今の4つは早急に取り上げたいものもありますので、時機を見て掲載ということにしたいと思います。よろしいですか。

あと、資料8の一番右側に丸がついているものがありますが、これは事務局から説明をお願いします。

(事務局) [事務局より、本委員会開催前に前回までの委員会での議論の内容を踏まえ、事務局として掲載を予定しているテーマとして、①レモンキャブ事業②母子保健(ゆりかごむさしのの取組み)③生活困窮者自立支援事業④特別支援教育⑤第7次総合情報化基本計画の5つのテーマについて説明を行った。]

(委員長) ⑤については、その内容が確定してから掲載したほうがよいという提案でしたので、時期的には今期に間に合うかどうかはわかりませんが、残りの4つは掲載できるということでもよろしいでしょうか。

(事務局) はい。説明した内容であれば大丈夫です。

(委員長) ではよろしくをお願いします。他に追加でのご提案はよろしいでしょうか。

(委員) 具体的なテーマで提案できませんが、この表の「V 都市基盤」に関連して、市内に住んでいて気になるのは、市が実際に行っている都市基盤の整備、例えば下水道、配管の交換などのハードウェア的な内容に関して、今後大丈夫かなと思うことが少々あります。

市民が最低限知っておくべき情報と言われるとどうかなという気はしますが、行政がこういうところを都市基盤として整備しています、こういうことでやっていきますといった情報があると、興味のある方は、そうなのか、やってくれているのかと安心すると思います。

(委員長) 「都市基盤の整備」としてテーマの候補に入れておきましょう。細かい内容については、こういう内容であれば掲載できるというものをに入れていただければよいかなと思います。他にはよろしいですか。

(4) 個人情報保護法の改正に伴う条例改正と委員会、審議会について

(委員長) 個人情報保護法の改正に伴う条例改正と委員会、審議会について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) [事務局から資料9及び資料10に基づき、条例改正の内容、パブリックコメントの結果及び今後の各委員会、審議会の位置づけ等について説明を行った。]

(委員長) 今の説明について何かありますか。

(委員) 個人情報の保護に関する法律ができたことによって、個人情報保護条例はもう廃止になるということですよ。

(事務局) そうです。

(委員) そうすると、今までの個人情報保護審査会については、情報公開審査会と一緒にやっていたと思いますが、どうなりますか。

(事務局) 一緒にやっていました。新たに審査会に関する条例は制定しますが、不服申立については、新たな審査会条例を立ち上げるにしてもこれまでの取り扱いを引き継ぐような形で行っていく必要があるかなと思っています。

(委員) 個人情報に関しては、そうすると、今までの審査会からは切り離すのでしょうか。

(事務局) 審査会では、情報公開と個人情報の両方の不服申立の審査を取り扱

います。

また、個人情報の取扱いに関しては、個人情報保護審議会に個人情報を用いた施策を実施してよいかどうかを事前に諮問しています。目的外利用や、本人以外からの個人情報の収集、要配慮個人情報の収集を行う必要があり、法律的な裏づけがない中で、市の独自の施策として必要であるためやりたいということになると、セキュリティ対策や公益上の理由がないと当然にはできないという話ですから、そうした対策や理由を明示した上で事前に諮問し、承諾を得て、個人情報の保護を図りつつ施策を展開していくという流れです。

しかし、この事前諮問については、今後個別事項に関しては法が許容しないこととなります。これについては国の審議会に対する事前諮問をあまりよく思っていないということと、個人情報保護委員会という組織が、法の運用管理について、市よりも上位機関として取扱うこととし、審議会に諮って決定するというのは二元的な管理になるため、そうした管理は法が想定する個人情報の流通を阻害することとなると考えているようです。

そうした点から、事前諮問を行うという性質の審議会はもう組織してはいけないという旨が、ガイドラインに記載されており、審議会を組織するにしても、枠組みがかなり変わり、新たな審議会という位置づけになってきます。

新審議会になるにあたって、全体的には、取扱いや報告という機能があるとすると、こちらの委員会と統合するのがよいのではないかと事務局では考えています。

(委 員) そうすると、事前諮問のような事項を審議するには、確かに専門的な知識を有している委員が必要だということでしょうが、一方で、C I Mというのは、情報公開を推進して行くにあたり、具体的に何をしていけばよいかという視点があります。そこはかなりの違いがあると思います。取扱う事項や内容や会の雰囲気は全く違うものを統合して、そういう問題について市民の方々も諮問に参加するというのでしょうか。

(事 務 局) 新審議会に公募委員を入れるかどうかは悩ましいところがあります。公募委員自体の否定はされていませんが、ガイドラインなどでは、専門的知見を有する方で構成すべきと言及されています。不服審査を取扱う会については専門的な弁護士、行政法の先生などで組織されていますので、そこまでは至らないにしても、例えば弁護士の先生や、情報セキュリティに詳しい方などにより組織することが想定されているような審議会です。報告事項は多いですが、諮問事項については、市内部で検討した細則や項目など、ガイドライン的なものの妥当性について言及するくらいのことが想定されているため、位置づけとしては専門的な会になってしまうということが想定されています。

よって、従来どおり、情報公開に関する内容は切り離すのか、統合するのかが問題となります。統合するとすると、C I Mコラムは取扱事項としては浮いてしまうので、切り離れたほうがよいのではないかと考えるもあり、この第2案の中で今後整理しなければならないと考えています。私どもとしては広報担当などを交えながら検討したほうがよいと考えています。とはいってもまだ固まってはいるんですが、合理的な検討をすればするほどC I Mコラムを取扱うとい

う会の位置づけと乖離していくという実態があり、どうしたものかと思っています。

(委 員) この委員会に参加するという点について、様々な情報があるから市民の方々に知らせようという視点がとてもすばらしいと思っています。法律家がそうした視点を発揮できるかについては、はっきり言って無理だと思います。よって、C I Mコラムはやっぱり何らかの形で残していきたいと考えます。広報の中に入れていくのかどうかについてはいろいろなやり方はあると思いますが、専門家集団の中に統合していくというのは、いいところが消されていくのではないかということに危惧します。

(事 務 局) 内部検討において、そうした危惧というのはあり、市側としては、各委員からの意見の吸い上げよりは、どちらかという市が主導し、案を提示して承認するような枠組みになる可能性はあるかもしれないという話をしています。

(委 員) よいアイデアが出てこないと思います。

(委 員 長) 現在の本委員会の委員は市民でもあり、その目線で市民の知りたいことはこんなことだということでこれまで運営してきました。そうした要素が無くなってしまうのは非常に残念だという意見ですね。

それについては、何らかの対応策を考えてほしいと思います。やはり新審議会の中ではそういう議論が本当にできるのだろうかという疑問があります。ほかにいかがでしょうか。

(委 員) この議事の中で、市民委員として、市民目線でどういう貢献ができるかという観点で毎回参加していますが、その中で、開示状況については、情報公開の中の一つの大きな課題というテーマとして当然あるべきだと思いますが、私の目線から言うと、情報公開はまずあるべき、情報公開されるべきだという目線です。そういう目線でこの報告を聞いているときに、見るところはどこかという、非開示だけです。非開示だけを見て、なぜ非開示かというところを知りたいし、市民の感覚から言えば、行政文書なり自己情報なり、開示してほしいと思うことがなぜ開示されないのかということを知りたいです。

それ以上、不服審査など、専門的な観点で開示すべきかどうかということについて、それ以上検討はできません。

だから、先ほど来議論になっているような、専門的な分野については一市民としてどうこう寄与できないと思います。ああそういうことがあるのかという市民としての理解は進みますが、この委員会の中で寄与できる何かがあるかという、それはない。

ただ、C I Mについては、先ほどもいろいろ意見がありましたが、市民として、例えばインフラは老朽化しているのか、どのような状況なのかとか、常に頭に浮かぶことがあります。そういう意味では、情報公開のうち、市民にいろいろな情報を提供するという広報的な部分については、本当に一市民としてこういうことを知りたいということは申し上げることができるので、今後どのように取り扱うかというように視点から言えば、情報公開の中の広報的な部分については、やはり、一般市民の声みたいなものを吸い上げられるものがあってほしいと思います。いわゆる行政文書の開示請求などの部分については、そこを市民としてどうこう言うこともできないので、そこを切り分けていただいたほうがよいというのが感想であり、意見です。

- (委員長) ありがとうございます。おそらく、他の委員も同じような意見を持たれているようにも思いますが、いかがでしょうか。開示・非開示の判断そのものに寄与できるわけではないので、そこは新審議会に譲ってもよいということについて検討していただきたいというのが、各委員の考えだと思いますが、いかがでしょうか。
- (委員) 個人情報保護委員会について、この組織はどこにできているのでしょうか。
- (事務局) これは国の組織で、公正取引委員会などと同じような組織で、時々マスコミにも出てきますが、個人情報保護全体を取り扱っている国の行政委員会という位置づけです。
- (委員) それでは、様々な省庁より、個人情報に関しては優越的な立場で取扱っているということですか。
- (事務局) 第三者機関的な特徴があるので、独立した権限がある程度与えられています。
- (委員) ただし、各自治体が行う審議会について、事前に審議会が口出しするなという基本方針から考えてみると、個人情報の活用の推進するという流れが前提としてあって、その上で、大きな枠組みについて保護委員会があるということですか。
- (事務局) 規制する機関として、公正取引委員会のような、国全体を取り締まる機関があつて、内閣府のデジタル庁が個人情報の活用を推進する機関だとすると、それと完全に切り離されて、個人情報を守るような機関という位置づけです。マイナンバーのときに発足した機関ですが、どちらかというところ、個人情報を守りつつ有効活用しようというようなスタンスで動いている国の行政委員会という形であり、各自治体の個人情報保護や取扱いに関しても、個人情報保護委員会の一元的管理の下でやるという形に組み替えられたということです。
- (委員) あともう1点、市には広報に関する委員会はあるのでしょうか。ある場合、それは市民参加のある委員会なのでしょうか。
- (事務局) 広報に関して市民が参加している委員会は、おそらくないと思います。広報委員会というものはありますが、それは基本的に庁内の職員で構成されているものです。
- (委員) C I M、Civil Information Minimumというのは、行政の基本的な広報に対する考え方だと思っています。広報委員会というものがあつたら、そういうところに委ねて、先ほどのような考え方でやってもらえれば、そういう組織でもよいかと思います。先ほどの委員の意見のように、専門的な知識を有する委員にはこういうものはもともと向かないところもあるかもしれないということについては、そうなのかなと思います。
- (委員) 何年前かに、公募委員の方から、この委員会です市の情報公開の在り方について検討しませんかという話があつたことがありましたが、この委員会はそういう位置づけではないというやりとりがあつたことを覚えています。庁内の広報委員会があるので、このようなものを作つたら困ると言われてしまうかもしれませんが、それこそ情報公開のやり方というか、市報もそうですけれども、LINEなど、新しい仕組みが入ってきて、そうしたことも含めて、変な言い方ですが、もっと若い方々に入ってもらって、そういう方々の意見も反映できるような部署ができて、そこにC I Mが入っていけばよいかと思います。

- (委 員 長) 皆様の考え、意見ですから、自由に出していただいて、検討していただけたらと思います。次回集まるときにはほぼ決まっている感じでしょうか。
- (事 務 局) C I Mコラムの今後の位置づけが次回の段階で全て決まっているかという、まだ整理し切れてない可能性はあるかもしれませんが、条例案を12月に提出するとなると、11月末までの間に、市として大体の方針を決めて、条例が通れば、次回の委員会では結論的なことは報告すると思われま。それと併せて、例えば、審議会と統合するという話であれば、今度はC I Mの話になりますので、C I Mについて市は今こういうふうを考えているという形は皆さんには紹介し、意見を伺えればと思っています。
- (委 員 長) 今日の意見も強く押しただけだとよいなということを、委員長として思いますので、難しい部分はあるかもしれませんが、よろしくをお願いします。
- (事 務 局) 皆さんの意見がなるべく吸い上がるような形では反映したいと思えます。ただ、やはり開示請求の話が面白ければよいと思えますが、なかなかそうした法律的な部分と、広報とか情報公開の在り方としてのC I Mコラムは、どうしてもカテゴリーが違うというのがあって、この機会に専門的なエリアは専門的なところに組み替えたほうがよいという事務局としての思いはあります。
- (委 員) 個人情報保護法と情報公開法はもともと発想が違う法律ですよ。個人情報保護法は文字どおり、個人を守るための法律で、情報公開法は行政文書等を適切に公開する。だから、違うかもしれませんが、おそらくそういう目的であって、準拠すべき法、考え方が別だと思われま。だから、役所の方が説明するのであれば、法、考え方が別だから一緒にするのはおかしいぐらいのトーンで言うだけであれば、この委員会が残るほうにはもしかしたら行かないかなと思ったところです。
- (委 員) 基本的には知る権利があります。ただ、片方はなるべく公開しようという、片方は個人情報を守ろうという形での視点で、それぞれチェックをするという。似ているようで、違うと言えは違いま。
- (委 員) 死者に関する取扱いが違いますからね。それ1つとっても違うという、1つの例示になると思いま。
- (委 員) 専門家委員会のほうの、情報公開部分を引き取らないとあまりに非効率なので、この市区町村でも引き取ってやっていますね。
- (委 員 長) よろしいでしょうか。いろいろ意見をいただきまして、どうもありがとうございました。また事務局から報告していただきたいと思いま。

(5) その他

[次回情報公開委員会は1月31日(火)か2月2日(木)午後6時から開催することを確認した。(その後、2月2日(木)午後6時から開催することとした。)]